

事業報告書

第Ⅶ期（令和4年8月1日～令和5年7月31日）

一般社団法人ハビリスジャパン

第Ⅶ期（令和4年8月1日～令和5年7月31日）事業報告書

I 法人の概況

1. 設立年月日

平成28年8月1日

2. 定款に定める目的

当法人は、義肢を必要とする子ども達と、様々な障がいがある子ども達の社会参加に関わる総合的な支援体制を確立することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 障がいのある子ども達の社会参加の支援事業
- (2) リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業
- (3) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業
- (4) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業
- (5) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

4. 会員の状況

個人会員 165名、賛助会員 16社

5. 主たる事務所の状況

主たる事務所：東京都港区港南2-16-1 品川イーストワンタワー4階

6. 役員等に関する事項

役職	氏名	常勤・非常勤の別	現職
理事長	長野洋	非常勤	
理事	松井秀文	非常勤	
理事	上田啓子	非常勤	弁護士
理事	藤原清香	非常勤	医師
監事	北村浩志	非常勤	税理士
監事	福村圭一	非常勤	

7. 職員（常勤）に関する事項

職員数		前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男子	0名	0名	—	—
女子	0名	0名	—	—

II 事業の状況

1. 事業の実施状況

(1) 障害のある子ども達の社会参加の支援事業

下記 PAFF イベントを計 20 回開催

① Habilis kids project 「オンラインでパラテコンドー教室」

令和 4 年 8 月 27 日、9 月 17 日、10 月 15 日、11 月 19 日、12 月 17 日

令和 5 年 1 月 21 日、2 月 18 日、3 月 18 日、4 月 15 日、5 月 20 日、6 月 17 日

(協賛：炫武館、ノエビアグリーン財団 2021[令和 4 年 8 月～令和 5 年 4 月教室]、ノエビアグリーン財団 2022[令和 5 年 5 月～7 月教室])

手足に特徴のある子ども達を対象に、東京パラリンピックの日本代表強化指定選手 阿渡健太氏の指導のもとパラテコンドー教室を毎月行った。今年は現地に来ることのできる子どもは現地で参加し、オンラインと対面を併用して実施した。オンラインでも開催を継続したことで、東北や四国在住の子どもの参加も可能であった。年間通して開催したことにより「手や足に障がいのある子ども達が定期的にパラスポーツを行う」体制を構築することができた。

② 令和 5 年 7 月 15 日：Habilis kids project 「夏休みパラテコンドー教室」

(協賛：炫武館、ノエビアグリーン財団 2022)

パラテコンドー教室を対面で 1 年ぶりに開催した。今まで画面を通して一緒に技を磨いていた友達と指導者に会えたことで、子ども達やご家族をはじめ、講師の阿渡健太先生、スタッフ全員と活発な交流ができた。みんなで汗を一緒に流し、技の練習をすることができた。

③ 令和 4 年 10 月 15 日：Habilis kids project 「みんな集まれ！秋フェスタ！ in 北海道」

(協賛：北海道科学大学、ノエビアグリーン財団 2021)

対面で開催し 10 家族の参加と、スタッフ総数 40 名余りが集まり 90 名規模の開催となった。レクリエーションやスポーツ・体力測定などスタンプラリー形式で様々なことに体験できるよう工夫した。本物の義手・義足に触れたり、実際に装着して体験できるブースを設置した。様々な義手を試用し縄跳びやマット運動などに挑戦する機会を提供した。

④ 令和 4 年 10 月 30 日、令和 5 年 7 月 9 日：Habilis kids project 「水泳教室」

(協賛：(株)大泉スワロー体育クラブ、ノエビアグリーン財団 2021[令和 4 年 10 月教室]、ノエビアグリーン財団 2022[令和 5 年 7 月教室])

パラ水泳教室を初めて今回開催、日本スポーツ協会公認コーチ資格水泳教師の下、9 家族が参加した。水慣れから、上手な泳ぎ方、コツなど子どものレベルに合わせて 3 チームに分かれて行なった。「障害が原因で自宅近くの水泳教室から断れてしまったので、今回参加できて嬉しかったです」という声もあり、障がいのある子どもたちが挑戦したい活動に取り組める場所を広げていくことが大切であるということがわかった。

⑤ 令和5年3月19日 Habilis kids project 「スノーボード教室 in 越後湯沢」

(協賛：ノエビアグリーン財団 2021)

スノーボード指導者、医療関係者同席の下、パラスノーボード教室を開催した。初めはボードの履き方から始まり、平地での滑る練習、リフトに乗り斜面での滑走練習と段階的に習得を目指した。参加者のうち半数以上がスノーボード未経験者であったが、最後には全員が斜面を滑りきることができた。「初めは怖かったけど、慣れてきたら楽しかった。来年も挑戦したい！」との声があった。

スノーボード教室活動動画 <https://www.youtube.com/watch?v=6B0kK-YGcAU>

⑥ 令和5年4月9日：Habilis kids project 「運動教室」

(協賛：(株)大泉スワロー体育クラブ、新橋ロータリークラブ)

手足に特徴のある子ども達を対象に対面で開催した。大泉スワロー体育クラブの立松沙希先生と立松佳通先生指導のもとリズム体操やストレッチ、マット運動などのプログラムで体を動かした。サーキットでは、トランポリンで跳ねたり、マットの上を這ったり、バランスをとりながら平均台の上を進んだり多様な運動に子ども達それぞれの方法で取り組むことができた。

⑦ 令和5年5月5日：Habilis kids project 大阪 「長居であそぼ」

(協賛：大阪市長居障がい者スポーツセンター、ノエビアグリーン財団 2022)

長居スポーツセンターの運動指導専門員の指導のもと体育室で体力測定および運動会を行った。開催時、十分な新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で実施した。大泉スワロー体育クラブの立松佳通先生も現地参加され、参加者の器械運動指導も行った。体力測定、レクリエーションなどのプログラムに親子で取り組んだ。さまざまな運動の楽しさを知ることができた。

⑧ 令和5年7月23日：Habilis kids project 「ネイル教室」

(協賛：(株)川村義肢株式会社、OPI)

手と指のケア講座が開催され、それに協賛した。ハビリスジャパンからは3家族が参加し子ども達やきょうだい、お母さんたちも手の手入れとキラキラなネイルにとっても楽しい時間を過ごした。本会には藤原清香理事が参加し、冒頭に挨拶を行った。手を隠すことなくケアをしてオシャレをすることをみんなで楽しむ時間を持つことができた。

(2) リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業

① 教育セミナー開催

(ア) 令和5年4月9日：Habilis kids project 「運動用義手体験」

運動教室に参加したご家族を対象に、東京大学医学部附属病院准教授である藤原清香医師から運動用義手についての講演を行なった。その後、実際に義手を試したり手に取ることができる体験会も開催した。参加者から「開始時期」や「義手の種類」などについての質問があり、参加者は義手について学ぶ機会となった。

② 家族交流会での情報交換会

(ア) 令和5年4月15日、5月20日、6月17日：Habilis kids project 「しゃべり場」

手足に特徴のある子ども達、その家族を対象に同様の障がいがある先輩に相談できる場「しゃべり場」を開催した。子どもや家族から先輩に多様な相談があった。学校生活での悩みや工夫している点、ご家族からは思春期に入った時の関わり方などについて質問があった。

(イ) 令和4年8月6日 Habilis kids project 「みんな集まれ！夏フェスタ！ in 北海道」

当初2022年8月6日に対面で教室を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で対面での開催は困難と判断しオンラインでの開催に変更となった。当事者の経験談を共有し、専門家の話を聞くことで、経験を“知る”場の提供を行なった。

(ウ) 令和4年10月30日、令和5年7月9日：Habilis kids project 「水泳教室」

令和5年7月15日：Habilis kids project 「夏休みパラテコンドー教室」

手足に特徴のある子ども達、そのご家族を対象に開催した。それぞれの子どもの経験や工夫を共有する場となった。先輩も参加することで先輩にも相談できる場となり、活発な意見交換を行うことができた。

③ 専用サイト運用 [アドレス (<https://habilisjapan.com>)]

当法人のHPを訪れた人に広く情報を発信した。今年度は、「すべての子どもたちが、自分らしさに誇りを持ち、成長できる社会」の実現を目指し2本の[Habilis Voice]を投稿した。

Habilis Voice #01 <https://tinyurl.com/2d392weh>

“まずはやってみよう！”。Habilis Japan で見つけた等身大の目標。

Habilis Voice #02 <https://bit.ly/3jD021G>

“自分の可能性を広げよう”。パラアスリートが子ども達に伝えたい、挑戦するということ

④ ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) の専用アカウントによる情報発信

Facebook、Twitter、Instagram ならびに YouTube の専用アカウントで、イベントで得られた情報を発信することにより、専用サイトへの誘引を行った。

Instagram パラテコ教室 頑張る仲間をPickUP！

- <https://www.instagram.com/p/Cto0Cq7pteY/>
- <https://www.instagram.com/p/CsfURwfJEgF/>
- https://www.instagram.com/p/Cp_QWdaS91E/

⑤ マスメディア等を通じた情報発信

(ア) 令和4年10月15日に開催されたHabilis kids project 「みんな集まれ！秋フェスタ！ in 北海道」の様子が紹介された。

- 2022年10月22日 北海道新聞 - 「ハビリスジャパン」札幌で初開催 情報交換の場にて

(イ) 絵本「いろんなおててとぼく」の製作に至ったエピソードについて

藤原清香理事といつきみどりさんのインタビュー記事が掲載された

- ・ 2022年12月2日 朝日新聞 神奈川版 -義手の息子の挑戦 絵本に-
- ・ 2022年12月7日 朝日新聞 東京版 -義手の息子と前向きな挑戦 -

⑥ 絵本を通じた啓発活動

絵本を通して対象児及び家族が義肢や当法人について知る機会を提供するため、絵本「いろんなおててとぼく」の販売を2022年12月から開始した。

⑦ PAFF ライブラリー

(協賛：独立行政法人福祉医療機構)

手足に特徴のあるこどもとご家族のための会員制のコミュニティサイトの運営を行なった。動画や画像の投稿や閲覧、参加者同士でコメントのやりとりが可能であり、悩みの共有や同じ特徴のある友達との挑戦方法を知ることができる。当事者(児童とその家族)が日常かつ継続的に情報共有ができる場となっている。

(3) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業

① イベントを通じたアンケート結果とデータ分析・地方開催の実現

2023年5月まで感染症拡大抑制の影響で現地開催イベントへの制限があった中、パラテコンドー教室は関係者の尽力、ならびに家族からのサポートもあり、オンライン・ハイブリッドで計12回開催ができた。また、感染症拡大前まで続けてきた運動教室を4月に再開し、あらたに水泳教室を10月と7月の2回、大泉スワロー体育クラブやパラアスリートの協力のもと実施し、家族・子ども達にも好評を得た。そして、昨年に続きスノーボード教室もGALA湯沢スキー場で開催した。北海道PAFFは感染症拡大の影響で8月はオンラインで一度実施のうえ、10月に体力テスト含め北海道科学大学で実施でき、新たに北海道の関係者とのネットワークができた。沖縄PAFFも11月に2回目を実施できた。また、大阪PAFFもGW中に大阪市長居障がい者スポーツセンターにて実施し、体力測定、生活習慣についてのアンケートを実施した。次年度は生活習慣のアンケートのオンライン化、対面でのPAFFイベントを増やしていきたい。

② 運動用義肢の開発

本邦の幼児教育・保育及び小学校での子ども達の活動を支援する小児用アクティビティ・日常生活用義肢の開発のため、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金と協働しパーツの検討と試作品の制作を行った。部品の販売と本法人によるレンタル、義肢の製作・適合調整技術の提供を目指し、子どもたちからの要望の高い義手・義足用部品の開発に取り組んでいる。

(4) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業

昨年度まで行ってきた貸与事業を今年度も実施し、現在 Shroom7名 Tamtam6名 Hamo9名の手先具貸与を実施している。筋電義手は2名の会員に貸し出しを行なっている。(令和5年7月末現在)

(5) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

① 会員、寄付者、提携サポーターの募集活動

本法人の目的を広く認知していただくために、ハビリス会員、賛助会員、寄附者の募集を行った。第7期はハビリス会員 165 名、賛助会員 16 社となった。寄附者は 4 社/15 名であった。

② 各法人・団体・個人との連携・協力体制の構築と継続的な情報交換（敬称略）

今年度は、東京新橋ロータリークラブ、東京大学医学部附属病院リハビリテーション科、東京大学スポーツ先端科学研究拠点、大泉スワロー体育クラブ、川村義肢、大阪市長居障がい者スポーツセンター、NPO 法人 Hand&Foot、先天性四肢障がい児父母の会、全日本テコンドー協会パラ委員会、(株)東鋼、(株)今仙技術研究所、(株)田沢製作所、東京大学大学院工学系研究科、福井大学医学部附属病院リハビリテーション科、琉球大学、炫武館のご協力があり多様なイベントを開催することができた。

③ その他

(ア) 公益財団ノエビアグリーン財団 2021 年度助成事業に申請し、助成金額 1,250 千円を得ており 2022 年 5 月～2023 年 4 月まで事業を行った。

(イ) 公益財団ノエビアグリーン財団 2022 年度助成事業に申請し、助成金額 2,900 千円を得ている。

(ウ) その他寄附金等について

- ・ BGC 証券チャリティデー 様より 2,673 千円 (2022/8/24)
- ・ NTT 労働組合様より 20 万円 (2022/9/13)
- ・ 東京新橋ロータリークラブ 様より 99 千円 (2023/6/1)

主な事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
障がいのある子ども達の社会参加の支援事業	PAFF パラテコンドー教室	令和 4 年 8 月 27 日	大泉スワロー体育クラブ・対面 炫武館・対面 オンライン併用
		令和 4 年 9 月 17 日	
		令和 4 年 10 月 15 日	
		令和 4 年 11 月 19 日	
		令和 4 年 12 月 17 日	
		令和 5 年 1 月 21 日	
		令和 5 年 2 月 18 日	
		令和 5 年 3 月 18 日	
		令和 5 年 4 月 15 日	
		令和 5 年 5 月 20 日	
	令和 5 年 6 月 17 日		
	夏休みパラテコンドー教室	令和 5 年 7 月 15 日	炫武館・対面 大泉スワロー体育クラブ・対面 川村義肢株式会社東京本社・対面 北海道科学大学・対面 琉球大学・対面 越後湯沢・対面 長居スポーツセンター・対面
	PAFF 水泳教室	令和 4 年 10 月 30 日	
	PAFF 運動教室	令和 5 年 7 月 9 日	
	PAFF ネイル教室	令和 5 年 4 月 9 日	
PAFF 大阪	令和 5 年 7 月 23 日		
PAFF 北海道	令和 4 年 10 月 15 日	北海道科学大学・対面 琉球大学・対面 越後湯沢・対面 長居スポーツセンター・対面	
PAFF 沖縄	令和 4 年 11 月 23 日		
PAFF スノーボード教室	令和 5 年 3 月 19 日		
PAFF 大阪	令和 5 年 5 月 5 日		

リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業	[教育セミナー] 運動用義手体験	令和5年4月9日	大泉スワロー体育クラブ・対面
	[情報交換会] 家族交流会	令和4年8月6日 令和4年10月30日 令和5年7月9日 令和5年7月15日	オンライン 大泉スワロー体育クラブ・対面 大泉スワロー体育クラブ・対面 神奈川・対面
	しゃべり場	令和5年4月15日 令和5年5月20日 令和5年6月17日	オンライン オンライン オンライン
	HP:Habilis Voice	令和4年10月27日 令和4年11月27日	当法人HP
	HP、Instagram、Facebook 上で の上記イベントの報告書作成と 掲載	(報告書) 随時	(報告書) 当法人HP/Facebook/ Instagram
小児用アクティビティ・ 日常生活用義肢等の 開発・調査研究事業	PAFF イベントでのアンケート 体力や生活習慣についてのアンケート	令和4年10月30日 令和5年7月9日 令和5年7月15日 令和5年4月9日 令和4年10月15日 令和5年3月19日 令和4年10月15日 令和5年5月5日	随時
小児用アクティビティ・ 日常生活用義肢等のレ ンタル事業	TRS 社 Shroom Tumbler/ 今仙 義肢 Tamtam-Hamo /Ottobock 社の筋電義手を個人へ貸与	随時	随時

その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
その他、当法人の目的を達成するために必要な事業	フライヤー作成・会報発行等による広報活動	随時	法人事務所

2. 重要な契約に関する事項

該当事項なし

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会・社員総会について

実施年月日

令和4年10月14日 第28回 理事会

令和4年10月28日 第15回 社員総会

令和4年10月28日 第29回 理事会

令和5年2月10日 第30回 理事会

令和 5 年 7 月 14 日 第 31 回 理事会

令和 5 年 7 月 28 日 第 16 回 社員総会

(2) 専門部会について

役職	氏名	常勤・非常勤の別	現職
専門部会長	大西謙吾	非常勤	大学教員（工学）

4. 収支及び正味財産増減の状況並びに財産の状態の推移

単位：円

事業年度	令和 5 年 7 月期
正味財産収益合計	7,931,020
正味財産費用合計	6,279,968
正味財産増減額	1,551,052
資産合計	13,813,764
負債合計	0
正味財産	13,813,764

III 法人の課題

昨年度と同様に事業拡大に伴い業務が増加し、事務局体制の整備や業務の効率化が課題である。そのため、今年度は業務マニュアルの作成やシステム化を進めた。また事務局員を増やし、持続的な活動のためプロボノメンバーを増員した。引き続き、事業の拡大に備えるとともに継続して活動を行える基盤を整備していく必要がある。

今年度まで毎年助成金を得ており多様な事業の継続に至っている。今後、助成金に依存せずに本法人の運営体制が保持できる財政基盤の確立に向け、事業の広域化や支援の充実化、連携・ネットワークの拡大に取り組みつつ、協力者の増加を目指した広報活動や社会啓発を目的とした情報発信を進め、持続的に活動できる協力体制の基盤を整備していく必要がある。

IV 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実

なし

第Ⅶ期(令和4年8月1日～令和5年7月31日)事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」が
存在しないので作成しない